

自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

2009年6月

No. 50

～1冊の本が人生を変える～

発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

Together with Africa and Asia Association(TAAA)



2009年6月までの報告と予定

- 1月～6月 南ア・ンドウェドウェ地区 農園・図書指導 24校訪問
- 2月 学校農園プロジェクト教師研修
- 2月 南ア各地の移動図書館に報告依頼
- 2月 JICA 主催 TAAA/JVC 相互研修
- 3月 苗床を設置
- 4月 南ア JICA/東京 JICA/TAAA ネット報告会議
- 5月 アフリカン・フェスタ2009に出展
- 7月 TAAA 活動報告会

目次	南ア TAAA が移動図書館バス運行開始 (平林 薫)	2
	成功した健康教育と学校農園プロジェクト (平林 薫)	4
	ズアールの移動図書館の報告 (久我 祐子)	6
	史上最大の輸送作戦 (浅見 克則)	7
	もう一つの世襲 (下谷 房道)	8
	アフリカン・フェスタ2009に参加して (山下 八千穂)	8
	TAAA と私 第10回 (野田 千香子)	9
	2008年度決算書 (西村 裕子)	10
	主な活動・ルイボステイ	11
	寄付・会費・本などを下さった方々	12



日本から送った中古と新品のサッカーボールは大人気 ヴレラ小学校にて

南アTAAAが移動図書館バス運行開始

TAAA 南ア事務所代表 平林 薫

移動図書館のために本を配布

昨年よりラッシュジャパンからの支援金で行われている図書活動支援プロジェクトでは、日本から到着した本や教材を学校に配布したり、移動図書館バス運行の準備をしたりしています。本はまずプライマリースクール(グレードRから7年生)用とセカンダリースクール(8-12年生)用、大人用に仕分けし、プライマリースクール用の本は、主にンドウエドウェ地域の小学校に配布しました。セカンダリースクール用の本はこれまで活動をした学校に配布したり、州内各地域の教育センターなどから担当者が引き取りに来たりしています。

ズルー語「ぐりとぐら」好評

プロジェクトでは“ぐりとぐら”の絵本をズルー語に訳して小学校に配布しました。生徒たちは大喜びで、先生方も“早速クラスで使います”と話していました。州教育省図書担当部門(ELITS)にも、“やはり母語を大切にしてもらいたいと始めたプロジェクトです”と手渡すと、“とても面白いアイデアですね”と驚いていました。

図書室に本がない、“がんばらなくっちゃ”

ひろしま祈りの石の支援金で始まった、ウグ郡での図書活動支援プロジェクトは、ELITSの地域を担当するプンガシェ教育センターと共に行なっています。対象校20校が決まり、現在研修会開催準備を行なっています。対象校の1校、クワガサ小学校を訪問しましたが、校長先生が“図書室です”と見せてくれた教室には本棚はなく、テーブルの上に本が数冊並べられているだけでした。“生徒たちが読書を楽しみ、本からたくさん学ぶことができるようになるよう、協力して活動を行いましょう”と話しながら、“がんばらなくっちゃ！”とやる気がわいてきました。



ズルー語の「ぐりとぐら」を読むズバネ小の生徒たち



移動図書館車“きぼう号”の出発

ボランティア貯金の支援金で始まった図書活動支援プロジェクトは、ンドウエドウェ地域を管轄するイレンベ郡の州教育省部長とのミーティングを行い、対象となる小学校30校を決定しました。学校菜園プロジェクトを行った23校はすべて参加し、新たに7校が加わりました。ムジェレ高校は菜園活動に参加し、学習院高等科からの寄附金で図書室が開設されたところなので、高校ですがプロジェクトには特別参加となっています。

クワガサ小にて、後列左から5人目:平林薫

移動図書館バスは、輸入車ということでライセンス登録に時間がかかっていますが、その間、仮ライセンスで学校訪問を行っています。車体の“習志野市立図書館 きぼう号”の文字は、どこに行っても皆“何て書いてあるの？”と興味津々です。車体にはズールー語の希望である“ITHEMBA”とTAAAのロゴを書き入れる予定です。バスで学校を訪問すると、生徒たちが一斉に集まってきて、目を丸くしてバスの中を覗き込んだり、車体に触ったりしています。先生方は生徒たちの本への興味がとても大きいと話していますが、バスがやってくることで、楽しみながら本に触れることができるようになると思います。

図書活動の教師研修

6月2日に各校の担当教師に対する研修会を開催し、ELET(TAAAが16年間協働してきた現地のNGO)のファシリテーターが図書活動の基本的な知識、進め方を指導します。バスの巡回は1日2校ずつ、1学期に貸し出しと返却の2回ずつ訪問を予定しています。また、学校図書室、コーナライブラリーへの支援を行うため、各校の現状(図書室の有無、スペースやコンディション、蔵書についてなど)を確認し、それぞれの学校の状況に合わせて本棚や本の購入を行う計画をしています。バスに載せる本については、日本から届いた本の中からプライマリー用の本を確保し、あとはELITSから科目の内容に沿った本のサポートをもらいます。

授業のための教材も提供

地域の学校では設備も整っておらず教材も不足している中で、何とか授業を行っている状況です。プロジェクトでは先生方が必要としている教材を提供するなど、できるだけ学校のリクエストに応じていきたいと考えています。NGOは迅速に、フレキシブルに対応できるのがメリットであり、活動内容を狭めず、学校における教育全般において必要な物資やスキルの支援を行っていきたくと思っていますので、今後とも、本や教材のご寄附をよろしくお願いいたします。



興味しんしんで集まるシゲドレニ小の生徒たち



本を開いて早速お勉強 デイ小学校にて

TAAA 移動図書館車送付の中止

TAAAはこれまで中古の移動図書館車を日本から送ることを活動の柱としてきました。しかし、ここへきて、南ア政府の中古車輸入規制が厳しくなり、10年以上の中古車は移動図書館車といえども、南ア国内へ入れることができなくなりました。長期にわたり南ア政府と交渉を重ねてきましたが、輸入規制の政策が変わるまでは、送付を中止せざるを得ないことになりました。これまで送った車について運行支援と本や教材の寄贈によって移動図書館の内容と学校図書館を充実することに力を入れていくことにいたします。

“成功した健康教育と学校農園プロジェクト”

～自分たちが育てた野菜を給食に～

TAAA 南ア事務所代表

平林 薫

2007年6月から約2年間、TAAA は、JICA の草の根技術協力事業として、南アのクワズールーナタール州（KZN 州）のンドウェドウェ地域の数百校の中から20の小学校を対象として、学校に菜園を作るプロジェクトを行ってきた。予定を上回る24校に学校農園が作られ、JICA プロジェクトの期間が終了した後も、高校を含めた新たな学校が菜園を開始し、家庭菜園への広がりも出てきている。

このプロジェクトのきっかけと目的は

- ① TAAA が長く図書教育支援やエイズ教育などで関わってきたンドウェドウェ地域の学校の給食が、ほとんどトウモロコシの粉を練った単品で栄養が偏っていたこと。
- ② その日の食事が給食だけという家の子供もいたこと。
- ③ KZN 州は比較的緑も多く、野菜を生育できる条件があること。
- ④ TAAA のパートナー団体である ELET は、すでにいくつかの学校で菜園を作って、収穫を出していたこと。

TAAA は現地の NGO や農業指導員と協力し、菜園づくりのための教員研修への参加を学校の校長に呼びかけた。これまでの活動で信頼を得られていたからだろう、どの学校も喜んで参加し、プロジェクトは順調に開始した。各学校の土壌や水の問題とも取り組みながら、一つ一つ、学校と農業指導員と TAAA が相談し合って解決しながら、どの学校も最終的に収穫を得て、今後の継続につながっていった。

特に目立った効果をあげると

- (1) 努力すると食料が確保できることがわかったこと。
- (2) 農業技術が学べたこと。
- (3) 収入源にもなることがわかったこと。（余剰物を販売し、学校の設備費に充てるなど）
- (4) 農業が好きになった子供たちも出てきたこと。（先々、農業に従事したいという子供もいる）



ズバネ小学校の農園



菜園で採れた野菜を使ったランチ



苗床

- (5) 校内の清掃など、環境に留意するようになった。
- (6) 男子も農業や水くみや食器洗いなどを、平等に行うようになってきたこと。

そして、さらに嬉しいことは、このプロジェクトはここで終わりではなく、これから自主的に継続し、発展していくことが約束されていることである。プロジェクトの最後に二つの学校にナーサリー（苗床）を作ったのであった。これは、ここで苗と種を育て、他校や地域に分けられるようにするためである。今後も TAAA はこの地域で移動図書館や図書支援活動を行っていくので、学校農園の継続や新たな学校菜園の取り組みを支援していくことができる。埼玉県助成金で各校に植えた果樹が育っていくのも楽しみなことである。

“ムルンギシ基金にご協力ありがとうございました”



マンダシ校のズルー校長、デリシーレちゃん、お母さん、ゾクトウーラくん
イナンダ地区・マンドシ校の卒業生、ムルンギシ君が結核で 21 歳の若さで亡くなってちょうど 3 年になります。その後、学校で給食作りや清掃の仕事を得たお母さんと、今年 11 年生（高校 2 年生）になった弟のゾクトウーラ君、6 年生の妹のデリシーレちゃんに会ってきました。ムルンギシ君の供養にとケーキを持っていたのですが、お母さんは“今すぐ食べる！”と大喜びでした。表情がとても明るくなり、少しふくよかになったようです。ゾクトウーラ君は背が伸びて大人っぽくなりました。彼は勉強がずば抜けてよくできるのですが、将来はエンジニアか会計士になりたいと話していました。また、語学に興味があり、趣味は“読書”。今回持って行った、分厚い“ハリーポッター”を飛び上がって喜び、早速ぱらぱらとページをめくっていました。デリシーレちゃんは将来、医者を目指しています。やはり語学が好きで、趣味は読書とデザイン画を書くこと。ゾクトウーラ君も絵が上手だし、亡くなったムルンギシ君はそれ以上に上手だったと聞いています。2 人を見ていると、ムルンギシ君がどれほど聡明な若者であったかが偲ばれます。将来ある若者を失うことは本当に残念ですが、彼は自分の命に代えて家族の状況を伝え、お母さんや弟妹を救ったといえます。今回、笑顔が絶えないお母さんの姿をみて、改めてムルンギシ君の家族への思いを感じました。

マンドシ校は、現在 11 年生までで、来年ゾクトウーラ君の学年が 12 年生にあがり、一貫校となります。ムルンギシ基金で新しい学年の椅子や机、美術に使う教材などを購入することができました。また、学習院高等科から TAAA を通して寄贈された本棚で図書室が開設され、現在では図書活動が活発に行われています。学校のレベルも上がり、遠くからも“是非マンドシ校に通わせたい”という保護者が多いと聞きます。ズルー先生は相変わらず元気いっぱい、今回聖書を寄贈したところとても喜ばれました。イナンダ地区は町に近い分、ンドウェドウェの学校より多少設備や教材に恵まれているように感じます。これから移動図書館活動を通して、ンドウェドウェの学校も何とかマンドシ校のレベルにまで持っていければ、というのが希望です。それでもズルー先生には、“私たちの学校も忘れないでね”と念を押されてしまいました。

(平林 薫)

ズアール(西ケープ州)の移動図書館車の報告

久我 祐子

現在、TAAA が送った移動図書館車を、4 つの州で NGO、州政府など9団体が、各地域の学校を巡回させて図書プロジェクトを行なっています。TAAA は、毎年これらの現地受取先からプロジェクトの報告書と写真を提出してもらい、バスのコンディション、プロジェクトの進捗状況や問題点などを確認し、連絡を取り合っています。これから、シリーズで、これらの団体の地域やプロジェクトについてご紹介していきたいと思います。今回は、西ケープ州の NGO「ズアール移動図書館車」をご紹介します。西ケープ州の遠隔地域にある小さな貧しい村ズアールは、住民のほとんどがカラードで母語は



どの本にしようかな

アフリカンス語です。そこで、現地の NGO「ズアール移動図書館車」は西ケープ州教育省から資金援助を受けながら、TAAA が10年前に送った一台のいすゞの移動図書館車を大切に使いこなしながら、地道に図書プロジェクト続けています。教育設備、教材が圧倒的に不足している地元の学校を定期的に巡回し、教育支援を行っています。この10年間でバスは、生徒たちだけでなくコミュニティーに愛されつづけています。今年も写真と一緒にアンケート様式のプロジェクト報告書が届きました。TAAA は今後も、本を寄贈することでズアールを支援していきます。

■支援対象地域、学校、生徒たちの情報

対象地域	ズアール	
対象校	9校	2359名
校内に図書館がある学校はありますか	ありません。	
学校は読書習慣を高める教育をしていますか。	しています。毎日30分間の読書時間を課している。	
全国標準と比較した生徒たちの読み書きレベル	平均	
中途退学者の比率	3%	
退学の主な理由	貧困、親の失業など社会や家庭の事情	
親たちの主な仕事	農地労働者、肉体労働者、家政婦	
片親に育てられている生徒の比率	40%	
学校給食について	全ての対象校に給食が配給されています。一般的な献立 ご飯と大豆 ピーナッツバターとジャム付きのパン メイズと豆	

■プロジェクト情報

プロジェクトはいつ始まりましたか	2000年
スタッフの数および職種	司書兼運転手 1名
運行資金	ブレッドライン・アフリカから3万5千ランド エンゲンから 4万ランド 年間計7万5千ランド
生徒が直接本を借りることはできますか。	

はい。全体の貸出の約60%は、生徒が直接かりています。40%は教師が生徒のために借りています。

移動図書館の学校巡回頻度

1週間に1回

生徒に人気がある本 10歳以下

絵本、小説、授業用の教材 10歳～

14歳 絵本、小説、授業用の教材辞書、

百科事典、辞書 14歳以上 小説、

授業用の教材辞書、百科事典、情報誌

サービスを一番よく利用する年齢層

6歳から15歳

需要が高いが不足している本

絵本、小説、授業用の教材

バスが一巡回に運ぶ冊数 800冊

教師はどのような態度で関わっていますか? 積極的にアドバイスをし、サービスの拡充を要求したりしている。

プロジェクトの主な問題点 特になし

移動図書館車プロジェクトにより生徒、学校、コミュニティがどう変わったか

- 生徒たちの中で読書熱が高まった。
- 子供たちが家で、読み書きのできない祖父母に本の読み聞かせをするようになった。
- コミュニティーにおいて、移動図書館車の価値が高まった。

昨年度(2008年4月～2009年3月)における主な進展

- 生徒たちの読み書きの能力が向上した。
- コミュニティーの大人たちも、読み書きができることの大切さを認識するようになってきている。



学校に巡回してきた移動図書館から本を借りた子どもたち

史上最大の本輸送作戦

以前4トン車一杯の本を輸送し借りた廃屋の根太を抜いたことがあるが、今回それに勝るとも劣らない量の本をセントメリーインターナショナルから頂いた。初期にやり取りしたメールでは、「約270ケース(一年間で我々が送る量に匹敵する)あります」との情報にびっくりし、急ぎよ大きなトラックを借りる。助っ人を以前から申し出てくれていた北爪さんにその日降って湧いたように葬儀委員長の役が…。一人でやるかと覚悟を決めていたところへ下谷さんからの申し出。百万の味方を得た思いで折からの桜満開で浮かれる世間を高速から見下ろしながら、それでも結構話は弾む。

予定通り10:30にセントメリー着。新任のNEEFS先生と握手、早速積み込みに取り掛かる。廊下、踊り場、図書館と至る処にある箱を6～7人の生徒と汗だくで運ぶ。トラックでは扉を全開にして下谷さんが積み上げに汗だく。天井近くまで積み上げた箱に下谷さんが潰されなければいいが……。 「本の雪崩で死んだら教育ボランティアとして本望か？」などと胸を掠める。今回は新校舎に旧校舎からの引っ越しによって大量の本の交換があったのだが…。それにしても多いな～。しかもNEEFS先生からはトラック代として寄付を頂き、いつもながら感激。

鈴谷の作業場に着いたのは2時を過ぎていた。懸念していた狭い角をバックでクリアし、お尻をなんとか突っ込んで荷降ろし開始。程なく野田さんからケーキとコーヒーの差し入れ。

休み休み3時間近く掛って降ろし切ったところには充実感のあるヘトヘト。これで2人は明日エントリーしてあるハーフマラソンに出られる。 (2009年4月 浅見克則)

もう一つの世襲

下谷 房道

選挙を前にして、議員の世襲制限が話題の一つになっている。

福沢諭吉は「門閥制度は親の敵(かたき)で御座る。」と言った。また、福沢は初めてアメリカを訪れた際にアメリカ初代大統領ワシントンの子孫は今どうなっているか、と人に尋ねた。彼の脳中には源頼朝や徳川家康のことがあったが、アメリカ人の反応はワシントンの子孫についてほとんど関心がない様子で、不思議と思った、と感慨を述べている。このような体験を踏まえ福沢は「天は人の上に人を作らず。」と主張し、学問をしたかどうかで差ができる社会の到来を説いて日本人に学問をすすめたのである。三田の文部省と言われた福沢の影響は大きく、明治の小学校に入学した満六歳の子供たちは、世界の近代競争社会の現実を教えられることになる。「サイタ、サイタ、サクラガサイタ。」ではなかったのである。

脱亜入欧をめざすことにつながるこの点の是非はここではひとまず置いておこう。問題にしたいのは滑り台社会とも言われるセーフティネットの薄い現在の日本で、経済格差が固定化し、教育を受け、学問をする権利が十分に保障されていなくなっていること、そして厳しい経済状況から脱出できずに、そのような状況が「世襲」されてしまっていることなのである。昨今の経済情勢から今年の学生支援機構等々の奨学金給付条件はかなり厳しくなると予測されている。教育を受けられず、夢を断念せざるを得ない生徒。南アのことばかりではないのである。毎日、そのような生徒と接していると暗い気分になる。議員の世襲問題については自分達のセーフティネットについては熱心に守ろうとしているんだな、とつい皮肉な気持ちになってしまい、この駄文を書いた次第である。

アフリカン・フェスタ 2009に参加して

山下 八千穂

去る5月16日、17日の2日間、昨年と同じ横浜赤レンガ倉庫イベント広場で“アフリカン・フェスタ 2009”が行われました。TAAAからの参加者は、一日目が中野敦子さん、上林潤子さん、野田千香子さん、西村裕子さん、私。二日目が中野さん、野田さん、佐々木佳世子さん、下谷房道さん、千葉愁子さんでした。16日は曇りで少し涼しいくらいでしたが、まずまずの人出でした。入口を入ると両側に各大使館のブースが並んでおり、私たちのテントは会場の真ん中で、人の集まる良い場所でした。TAAAのブースでは、ビーズアクセサリ、ルイボスティ、ホワイトバンドなどを販売しました。アフリカの女性たちの手作りのアクセサリの中でも、めがねチェーンは好評で、品切れになってしまいました。

午後はNGOのテントで、活動報告の発表がありました。野田さんが、作業の様子やこれまで送った移動図書館車、学校菜園、植樹、図書室など平林さんが撮られた写真を数十枚見せながら説明し、私も南アの学校を訪問した際の様子を話しました。20人位座れる椅子はほぼ満席で、大人も子供も真剣に聞いていました。

TAAAのテントにて、左から私、中野さん、野田さん、西村さん



TAAAと私

第10回(1996~97年) 野田千香子

移動図書館と教育システムを作った白人女性たち 1

1996年に2台送付した移動図書館のうち、1台はヨハネスブルグに近いベノニ市のデベトン地区で学校を巡回し始めていた。このシステムを作り上げるのに命をかけてくれた

のは、ジューン・アリソン(スコットランド出身)(写真:右から2人目)だった。アパルトヘイトが終わり、新政権が誕生したことを多くの白人も喜び歓迎していたが、実際、教育をはじめ住宅環境その他のひどい格差については、そっと黙って見ぬ振りをしている人たちが大半だった中で、アリソンさんは率先して黒人の居住区



に通い、本を整理・分類し、PCシステムに入力し、黒人の運転手と一緒に毎日、デベトンの学校を巡回した。お連れ合いは世界的に有名な企業のCEOであった。彼女はそこから、すでに肺がんの治療をしながらも、笑顔で仕事に励んでくれていた。1999年、54歳で亡くなったが、病院のベッドの中からも移動図書館のことを気づかってくれていたと聞いた。彼女のおかげで今、デベトンの移動図書館システムは他の移動図書館の模範となっている。

移動図書館と教育システムを作った白人女性たち 2

当時、南ア NGO である ELET のオフィスはダーバン市の中心街にあった。クワズールーナタール州全域のみならず、東ケープ州まで数100キロに渡る広域の小中学校の教育指導をアパルトヘイト下の1984年から行ってきていた。アパルトヘイトのもとで十分な教育を受けられずに、小学校卒業程度で教員になっている人もいた。教科書も行き渡らず、あっても古いアパルトヘイト時代の教科書しかない学校もあ



る中で、ELET は教材を開発し、生徒に鞭を使う一方的な教授法を改め、生徒の学ぶ意欲を引き出す授業の方法を教えていった。ELET の人材は当時は数10人いて、外国の大学院や博士過程を出た専門家も多くいた。そうした中の一人がジュリア・ソスキンであり、ジェーン・ジャクソンであった。ジュリアは聡明で優しい英国系ユダヤ人で私たちの送った本を受け取り、各学校に配布し、授業に生かしていた。

もう1台の小さい移動図書館車はELETに送られた。私たちは埼玉県から、助成金を得て、ELET のジェーン・ジャクソンを日本に招くことになった。県立熊谷図書館の移動図書館車に同乗して、秩父方面への1泊の巡回運行に参加してもらった。ジェーンは東京でも、講演会を行い、TAAAの本を利用する学校の様子や、南アの教育状況について話した。

成田から東京への車中のジェーンの第一印象は「日本の家はとても小さくてくつきあっているのね!」というものだった。車ほどの広さの1坪が100万円~200万円することに驚愕していた。

ELETへ送った小さな移動図書館車はダーバン郊外の山を越え丘を越え、悪路を巡回した。その後、市中の駐車場代がかかるためにハウテン州に委譲し、今は引退して小学校の校庭で固定図書館として使われている。

ジェーンもジュリアも現在は ELET の職員ではないが、先日、TAAA の南ア事務所代表の平林薫から二人と一緒にの写真が届き、びっくりした。5月に ELET の25周年記念パーティーが開催され、その会場で、初めて平林は二人に出会ったのであった。平林が ELET と仕事を始めたときにはジェーンたちは ELET のスタッフではなかった。しかし、今後の TAAA の図書活動に彼女たちの協力を得ることになったのである。



写真下: 左から ジェーン、平林、ジュリア 2009年5月 ダーバンにて

写真左:熊谷図書館で研修を受けるジェーン

アジア・アフリカと共に歩む会
2008年度 決算書
 会計期間：2008年4月1日～2009年3月31日

I：一般会計

(収入の部)

寄付金		2,364,089
会費	1. 会費	133,000
	2. 賛助会費	45,000
助成金	1. 埼玉県国際交流協会	500,000
	2. ひろしま祈りの石	1,500,000
	3. ラッシュュジャパン	1,000,000
販売収入		70,700
受取利息		2,732
為替差益		11,386
	計	5,626,907

(支出の部)

国内図書館車関係費		234,966
国内図書関係費		326,857
南ア事務所活動費		1,591,796
現地視察費		122,813
通信費		121,373
事務費		154,283
旅費交通費		50,000
印刷費		93,790
水道光熱費		9,505
現地NGO支援	ELET支援金	528,200
	計	3,233,583

II：収支決算書

前期繰越金	2,314,016
＋ 一般会計収入	5,626,907
－ 一般会計支出	3,233,583
－ 次期繰越金	4,707,340 (内：453,091円は南ア事務所残金)
	0

2009. 4. 19

会計： 西村裕子

会計監査： 下谷房道

* 2007年～2009年3月 JICA草の根術協力事業(2年間で約1000万円の委託事業費)として実施した”クワズルーナタール州・ンドウエドウェ地域の小学校における健康教育と菜園プロジェクト”に関する会計報告書は、別途JICAへ提出済みのため、こちらには記載してありません。予想以上の成果をあげて、今後の自主的な発展につながるものになったことでJICAからも高い評価をいただきました。

◆ 主な活動 (2009年1月16日～2009年5月15日) 下線は南アにおける活動

- 1/17 会報49号編集開始 野田千香子
 1/17 サンタマリアインターナショナルスクールへ本引き取り 浅見克則
 1/17 NPO 自立生活サポートセンターもやいを訪問 代表理事 稲葉剛氏と話 野田
 1/20 TAAA 南ア事務所代表 平林薫 南アへ戻る
 1/20 南アへ送金 野田
 1/21 会報49号 HP へアップ 近藤信幸
1/26 ELETにて会議 平林薫
1/27 ンドウエドウェ学校訪問 平林
 1/29 本の運搬 作業場へ 渡辺英通
 1/31 セントメリーインターナショナルスクールへ本引き取り 浅見
2/2 ELETにて会議 平林
 2/3 会報の校正 西村裕子
2/4 学校英國教師研修開催 平林
 2/6 会報印刷へ 野田
2/10・11 ンドウエドウェ学校訪問 平林
 2/11 作業場整備 野田
 2/12 南アへ移動図書館報告書を依頼 久我祐子
 2/12 「ぐりとぐら」シールプリント 西村
 2/13 英語の本50箱搬入 北爪健一
2/16～18 JICA主催TAAA/JVC相互研修開催 平林
 2/15 梱包作業と会報郵送準備 西村 浅見 丸岡晶 野田 鯨井幸一 上林潤子 上林野恵 渡辺 下谷房道 北爪 浦和学院高校より 田中真悠さん 石原千尋さん
 2/15 埼玉県国際交流協会トークショー 野田発表 渡辺
 2/16 川口市立芝富士小学校より算数セット寄付
 2/22 サンダル・スリッパ GIVE One を通じて 990 足寄贈 受ける
2/23 ンドウエドウェ学校訪問 平林
2/23 (株)鈴木鉄工所 寺田氏とミーティング 平林
2/24・25 ンドウエドウェ学校訪問 平林
3/2・5・6 ンドウエドウェ学校訪問 平林
 3/6 「ひろしま祈りの石助成金」決定
 3/6 ボランティア貯金配分金決定
 3/6 HP 更新 渡恵美子
3/9～13 ンドウエドウェの2校に苗床設置 平林
 3/15 出納帳・証書照合 西村 野田
 3/15 梱包作業と会議 浅見 野田 鯨井 西村 渡辺 上林 浦和学院高校より 小林志奈先生 佐原沙樹さん 宮田みなみさん 戎屋優さん
3/18 ンドウエドウェ学校訪問 平林
 3/18 「ひろしま」「ボ貯金」手続き 野田
 3/20 ミーティング 久我 野田
3/20 ELETにて会議 平林

- 3/21 学習院高等科食品委員会に感謝状(文化祭バザー収益ほかによる協力について) 米山周作
3/24 ンドウエドウェ学校訪問 平林
 3/28 反貧困フェスタに参加 野田 渡辺
 4/1 HP 更新 渡
4/1・2 ンドウエドウェ学校訪問 平林
4/3 州教育省にて会議 平林
 4/4 セントメリーインターナショナルスクールへ本引き取り 浅見 下谷
4/6 本の保管を州教育省へ移動 平林
4/8 本の整理とバスライセンス申請 平林
4/9 移動図書館車の修理 平林
 4/9 段ボール搬入 浅見
 4/10 決算報告書作成 西村
4/14 州教育省にて会議 平林
4/15 ELETにて会議 平林
 4/17 JICAにて4者ネット会議 TAAA 南ア・南ア JICA・東京 JICA・TAAA 平林 野田 久我
 4/17 JICAにてTAAA ネット会議 平林 野田 久我
 4/19 作業と会議 浅見 野田 西村 上林 鯨井 下谷 浦和学院高校より 田中さん 塚田慧美さん 中町 恵さん 稲田未央さん 明野さやかさん
4/21 ンドウエドウェ学校訪問 平林
4/23/24 バスのライセンス申請 平林
4/27 フリーダムデーイベント参加 平林
4/28 バスのライセンス申請 平林
4/30 ンドウエドウェ学校訪問 平林
 5/1 報告会場申し込み 野田
5/5 本の整理 平林
5/6 州教育省と会議 平林
5/8 ンドウエドウェ学校訪問 平林
 5/10 決算書作成準備ミーティング 西村 野田
 5/11 南アへ送金 野田
5/11 本の整理 平林
5/12～15 ンドウエドウェ学校訪問 平林

ルイボスティのご紹介

ルイボスティ茶は南アの西ケープ州だけでとれます。赤ちゃんからお年寄りまで飲んでいただける健康茶です。

1箱 80パック 2000円(送料一律500円)

(5箱以上 送料無料)

1パックでヤカン一杯のお茶が飲めます。

お申込みは、P12 のTAAA連絡先へ

ルイボスティに同封する振込用紙で後からご送金ください。